

北海道の若年層の生活意識
少子化の背景にあるもの



安田 睦子 (やすだ むつこ)

(有)インタラクティブ研究所代表

1952年札幌生まれ。小樽商科大学卒業後1974年～82年まで札幌市勤務。94年北海道大学大学院社会人入学、修了後96年4月(社)北海道開発問題研究調査会客員研究員。99年4月～2002年3月(株)地域開発研究所取締役社会調査室長を経て、02年4月(有)インタラクティブ研究所を設立し、現在に至る。地域福祉や健康、子育て等に関わる社会調査の他、防災や地域福祉、男女共同参画などをテーマとする住民研修や自治体職員研修を企画運営。

今、人口減少問題、特に少子化が注目されているが、北海道の少子化について、以前から二つのことが気になっていた。ひとつは若年層の生活意識の変化であり、もうひとつは、これまで高齢化対策に比べて、若年層に関わる課題について多面的な議論が少なかったのではないかということである。『平成25年版厚生労働白書—若者の意識を探る—』では、少子化対策として結婚・出産・子育て支援のセットが示されているが、北海道にもそのまま当てはまるとは思えない。そこで、道内の社会調査から若年層の調査結果を取り出し、北海道の若者の生活意識の変化を考えてみたい。

北海道における若年層の生活意識

少し古いデータになるが、道内の若年層の生活意識の変化を、「道民意識調査」の平成7年度と平成18年度により比較してみた。

この調査は、住民生活に関連する45項目について「満足度」と「重要度」を4段階で問い、加重平均（-2～+2）を比較したものである。+2に近いほど、満足度や重要度が高く、-2に近いほど低くなる。若年層の範囲は、平成25年版と同様に「20～39歳」とする。

若年層で、重要度が1以上で回答者全体よりも特に高い項目は、仕事（働く場の確保）、医療（必要な診断や医療の受診）、子どもを産み育てやすい環境、老後の年金等の確保となっている。これを補足する項目として、物価（物価や地価の安定）、保育所や幼稚園が近くにあること、教育（小中高の充実）、安心安全（犯罪などの心配）、余暇（自由な時間）が高くなっている。

		仕事（働く場の確保）		医療（必要な診断や医療の受診）		子どもを産み育てやすい環境	
		満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度
H7	全体	-0.21	1.33	0.72	1.53	0.29	1.22
	20歳代	-0.09	1.62	0.69	1.61	0.17	1.33
	30歳代	-0.17	1.51	0.54	1.71	0.22	1.44
H18	全体	↘ -0.66	↗ 1.54	↘ 0.12	↗ 1.65	↘ -0.25	↗ 1.40
	20歳代	↘ -0.48	↗ 1.70	↘ 0.15	↗ 1.79	↘ -0.21	↗ 1.51
	30歳代	↘ -0.68	↗ 1.69	↘ -0.25	↗ 1.66	↘ -0.47	↗ 1.59

		老後の年金等の確保		物価（物価や地価の安定）		保育所や幼稚園が近くにあること	
		満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度
H7	全体	-0.59	1.55	-0.15	1.29	0.69	0.66
	20歳代	-0.51	1.58	-0.06	1.40	0.49	0.73
	30歳代	-0.68	1.64	-0.16	1.38	0.65	0.92
H18	全体	↘ -1.18	↗ 1.70	↘ -0.23	↗ 1.31	↘ -0.11	↗ 1.24
	20歳代	↘ -1.23	↗ 1.70	↗ 0.00	↘ 1.35	↘ -0.07	↗ 1.39
	30歳代	↘ -1.33	↗ 1.75	↗ -0.13	↘ 1.33	↘ -0.44	↗ 1.48

		教育（小中高の充実した教育）		安心安全（犯罪などの心配のない）		余暇（自由な時間）	
		満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度
H7	全体	0.52	1.14	0.33	1.55	0.22	0.99
	20歳代	0.42	1.13	0.21	1.73	-0.07	1.30
	30歳代	0.27	1.44	0.27	1.69	-0.09	1.19
H18	全体	↘ 0.20	↗ 1.43	↘ -0.33	↗ 1.61	↘ 0.01	↘ 0.98
	20歳代	↘ 0.20	↗ 1.42	↘ -0.41	↘ 1.69	↘ -0.22	↗ 1.32
	30歳代	↘ -0.04	↗ 1.54	↘ -0.40	↗ 1.75	↘ -0.34	↗ 1.23

平成7年度と平成18年度を比較すると、物価を除く他の項目で、重要度が高くなった一方、満足度は低くなっている。特に、仕事、子どもを産み育てやすい環境、保育所や幼稚園が近くにあること、老後の年金等の確保では、その開きが大きい。中でも、子育てに関連する項目が大きく変化しているため、女性労働の変化について、国勢調査（平成17年国勢調査第2次基本集計結果北海道分、人口の労働力状態）で見てみた。

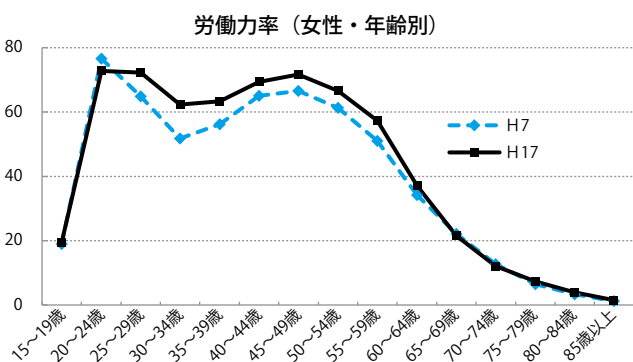
平成17年の北海道の女性の労働力率（20～65歳）は、平成7年に比べて高く、特にこれまで出産・育児のために低くなるといわれてきた「M字型」の低い部分に当たる25～39歳の労働力率が高くなっている。この時期には、若い女性の社会進出が高まり、保育所や幼稚園、教育、子どもを産み育てやすい環境へのニーズが高くなっていたことがわかる。それに対して、子育て支援の環境が追いついていなかったため、満足度はより下がることとなった。

一方、若年層では余暇の重要度が全体に比べて高いが、その満足度は平成18年度では低くなっている。余暇には、家族団らんや子どもと過ごす時間、友人と過ごしたり、趣味やスポーツを行う時間が含まれ、若い世代では男女で子育てするために必要な時間と考える人が多い。

安心安全を見ると、平成7年度に比べて平成18年度の満足度が大きく下がっている。参考に、平成24年度道民意識調査から類似した調査項目として「地域の子育て環境についての安心度」を見ると、満足度は同様に低い。

また、老後の年金等の確保では、若年層の重要度は全体と同程度に高いが、満足度は全体よりも低く、将来生活への不安が大きいことがわかる。

こうしてみると、若い世代が結婚や出産、育児に対して前向きに考えられない実態が見えてくる。



少子化対策に関する法整備

国は平成15年以降、少子化対策の法制度に取り組み、少子化対策基本法、次世代育成支援対策推進法、育児・介護休業法などを制定した。平成19年には「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」が決定され、平成24年7月には法改正により、雇用者101人以上（常時雇用労働者）の企業にも行動計画の義務付けを拡大した。平成25年には「待機児童解消加速化プラン」が策定され、「子育てを社会全体で支援する」ことも掲げられている。しかし、これらの成果はまだ見えない。

若者が求める暮らしとは

若年層が重視しているのは、生活の基盤となる働く場（所得）、女性が結婚・妊娠・出産と仕事を両立しながら働ける環境や医療の充実、男女で子育てできる時間をもてる就業環境、そして子どもの保育と教育の充実、安心して子育てができる地域社会である。こうしてみると、生活の質や豊かさに大きな影響を与える要素が並ぶ。若者が求めているのは、このような豊かさを実感できる暮らしであることが見えてくる。

少子化の背景には、若年層の生活意識の変化だけではなく、都市と地方の関係、若年層の男女の人口構成、産業構造や地域経済（雇用状況）などさまざまな要因が重なり合い、数十年をかけてそれぞれが変化しながらできた厚い層が横たわっている。その対策には複数の視点が必要となり相当な困難を要するだろう。

最後に、札幌市の若年層の意識を平成25年度「札幌市子どもに関する実態・意識調査」から紹介したい。19～29歳では「地域で子育てに関心のない人が増えた」と思う人が7割を占め、「札幌市が子育てにとってやさしいまち」と思う人は4割と半数に満たない。「少子化」は、若者が社会のあり方について投げかけた大きな問いのように思えてくる。

地域の子育て環境（北海道）

H24	満足度		重要度
	全体	0.13	
	20歳代	-0.17	
30歳代	0.12	-	

(H24道民意識調査) 類似の調査項目から加重平均を計算し作成。

子育てに関する意識（札幌市）

地域で子育てに関心のない人が増えた	思う (%)		札幌市が子どもにとってやさしいまちと思うか	思う (%)	
	全体	65.9		全体	48.3
	19～29歳	71.0		19～29歳	38.5
	30～39歳	59.3		30～39歳	45.0

(H25札幌市子どもに関する実態・意識調査) 「思う」＝そう思う＋どちらかといえばそう思う。